

会報二月号 優柔不断な者たちへ

目次

- ・ 選択
- ・ 問答
- ・ 信じる
- ・ 展開
- ・ 同じ
- ・ まとめ

● 選択

「まことに日に新たなり、日に新たなり、又日に新たなり」。これは四書の「大學」に記された、殷王朝（紀元前十七〜十一世紀）の創始者である湯王が使っていた洗面器に刻まれた銘文である。一日自分を新しくすることに努力した後は、次の日も新たにし、更に毎日新たにしていく。つまり、少しでも新しくしようとする努力を途切れることなく続けようと、自らを戒めたのである。

人生は選択・決断の連続である。が、大人になるにつれて臆病になるか固執するかして、悪い意味で動かなくなり、子供の頃とは違って「日新」できなくなる人もいる。「子供だった頃は、後先考えず、感情だけで動けたし、責任の小ささ故か、好奇心の赴くままに色々冒険もできた。大人になったらそうはいかない。いろいろな事情があるんだよ」と言う人もいる。言い訳だと言ってしまったら身も蓋もない。日新できない色々な事情があるのだろうか。

しかし、様々な責任を負いながら頑張っている大人たちが、新たなことや挑戦に対して、また、些細なことでもさえも優柔不断に陥り、いつの間にか周囲の声に合わせて流されて生きていくというのは、やっぱりどこか哀しく思う。その人の気高さや美しさが埋もれてしまっているのではないだろうか。そういった姿勢や選択の先に続く道は一体何処に向かうのだろうか。

● 問答

そこで、極寒の今月は、時間ギリギリまで布団の中で丸まっていて「優柔不断の代表」たる私が、自戒も込めて、即断即決できる人、新たな選択ができる人にその秘訣を教えてもらうことにする。

それでは早速、優柔不断代表（以下Y）としてお尋ねします。

Y 「①人から色々言われることもあるのに、なぜ自分を信じて選択できるのか？②怖くないのか？③間違った方を選んだらどうするの？④できなかったら、失敗したらどうするの？」

周囲に流されずに自分の選択に自信を持てる人（以下S）の答え。

S 「①なぜ自分を信じて選択できるのだろうか？それが普通だからね。うーん、改めて意識したことなかったな。なぜだろうね？」

「②怖がる気持ちは誰でも持つてると思う。分からないことについて恐怖を抱くのは当たり前。未来は分からないことの一つ。だから、怖がるのは悪いことではなく、健全だし当然だと思う。怖くても構わないんじゃない？私も怖いと思う時あるよ。ただ、怖がる必要はないと思ってる」

「③自分の選択が間違っているかどうかは分からないよ。自分がやってみた後にしか分からないことだと思うから」

「④やってみないと、成功も失敗もできないよ。できなかったり、失敗したりしてそれが嫌だったら、その時またどうするか考えればいいと思う」

Y 「確かに、選択する前からゴチャゴチャ考えても答えは分からないのだから、怖がる必要はないのは理屈では分かる。だけど、一つを選んだ結果、それが間違いだったらどうしよう、失敗したらどうしようっていう不安はなかなか消せない。その不安や怖さを克服できるようにするだろうか」

S 「何かを選ぶ時にできることは一つだけだと思っている。それは、「自分の選択が、いいもの（健康・幸福・調和・成長・進歩・造化・自己実現・自他共栄等）に繋がっていると本気で信じる」こと。

ネットでいろんな情報をかき集めたり、色々考えたりするより簡単だし時間もかからない。「いいものに繋がっていると信じる」だけだから。すると、ピシッと心が定まる、肚が決まるでしょ。心が安定するし、気持ちいいよ。いずれにせよ、外野の声や情報、もしくは自分の過去の経験や感情に振り回されたら、全力で取り組めないんじゃない？全力で取り組む気持ちよさを味わえないのも勿体ないよ。そもそも、全力を出さないなら、それはあなたの個性も特質も力も出してないってことかも。全力を出さずに個性や特質の自覚はできないでしょ。それじゃ、面白くないでしょ？」

Y 「なるほど。さすが即断即決できる心を持った男だ。優柔不断の私とは心の在り方が違う。私は、わかるはずのない未来を怖がって、自分で決められないでいる臆病者だ。臆病は臆する病と書くように、健全ではない。何かを選ぶ時の心は、臆病ではなく、「自分の選んだものは、いいものに繋がっている、繋げることができると信

じること。信じた心で全力を尽くすだけだ」

●信じる

S「君は怖いから優柔不断になってるんじゃないで、この選択はいいものに繋がっている」と信じていないから優柔不断になってるんじゃない？」

確かなものだから信じられるってこともあるだろうけど、信じるから確かなものになっていくっていうのもあるんじゃないだろうか。何かを選ぶ時、新しいことに挑戦する時は、これはいいものに繋がってるって信じて選んでみたらどうだろう。即断即決もそんな難しいことじゃないと思うよ。

最初に聞いてくれた、「なぜ自分を信じられるのか」っていう質問の答えだけど、そういう心であろうとしてきたからと言うしかない。信じて取り組むことが自分のやり方だからとしか今は言えないよ。でも、信じて自分の選んだ道に飛び込んで、それと一体になろうとすること。信じる、飛び込む、一体となる。そんなニュアンスを大事にしてる。

でも、そういう心はみんな持つてると思うけど：。優柔不断な人は、信じる心、飛び込む勇氣、そして対象と一体となろうとする心を、ちよつと忘れてるだけかも。

●展開

Sのような人の言葉には嘘がない。自分の選択した道も、いいものに繋がるという可能性も心から信じて、自分の選んだ対象を一生懸命に理解しようとして一体となろうとしているから。彼のその姿勢と熱意は周囲に伝わって協力者が出てくる。協力しなくなるのだ。熱意は、信念（義）と相手を理解しようという気持ち（仁）でできているのかもしれない。「熱意は磁石」と教えてくれた恩師を、ふと思いつ出した。

勿論結果に行き着くまでには、喜怒哀楽も艱難辛苦も利害得失も栄枯盛衰も諸行無常も会者定離も：、そして成功も失敗も味わうことだろう。やがて、全部をひっくり返して「面白かった、楽しかった、ワクワクした」という思いが心に刻まれる。そう思えるなら、「やってよかった」じゃないか。また次に繋がるじゃないか。

●同じ

ここまで来て、優柔不断代表という名前を返上できそうな気持ちになってきた。

何事も、やってみなければ分からないのだから、やる前から怖がる必要はないと教わったことは、臆病な自分には大きい。そして、自分で選ぶ前にできることは一つだけ。自分の選んだ「一」は、いいものに繋がっていると信じてること。

予測や情報や予算や仲間よりも、まず自分の心の在り方が大事である。心がズレていれば、物事もそのように見えることになる。人間関係も、出来事も、物も、価値観や感情も：、全ては自分の心を映し出している鏡だからである。

世の中に溢れているものは、心が定まるまでは、自分の「一」の純度を下げ、優柔不

断にさせてしまうものが多い。それらに翻弄されて情報に溺れてしまう人もいるし、情報を集めたり分析したりして時間を失ってしまう人もいる。それら全てが自分の心が映し出されている鏡だと自覚するまでは、心が定まらない限り、外部のモノに翻弄され続けるだろう。しかし、心が定まれば、世の中のもの全ては全て自分の協力者になり得る。そこに映るものは全く違ったものになる。あとは自らを信じ一体感を以て進むだけ。人事を尽くした後どうなるかは、その時にならなければ分からない。ただ、「面白い、楽しい」ことは間違いない。

結局のところ、より大きな視点から見れば、どちらを選択しても同じことなのだ。どちらでも同じなら、心に信がなくてもいいじゃないかって？そうじゃないよ。取り組む姿勢が違ってしまふ。信じられないなら、選んだものの一体感を得るまで理解しようとは思えないだろ。中途半端になる。そうすると、面白いかどうかではなく、成功か失敗か、損か得かという評価でしか測れなくなるかもしれない。それじゃ、やってよかったと思えるのは、得したとき、成功した時だけになる。でも、結果は「分からない」んだよ。

損得で決めるのではない。信じる心で決めるのである。もし、「これはさすがに無理だろ」と周りから言われたとしても、「この選択は少しでもいいものに繋がっている、繋がられる」と信じるなら、迷う必要はない。選んだ道を信じて一体となって歩む。それだけ。

#### ●まとめ

何かをやる時にできることは、間違えたらどうしよう…、失敗したらどうしよう…、いつまでも情報を集めよう、分析しよう…ではなく、怖がることなく、「この選択は「少しでもいいものに繋がってる」と信じることでなく、成功か失敗かの評価を目指すのではなく、信じて、一体感を以て、人事を尽くすこと。そうすれば、その中にある、艱難辛苦も利害得失も喜怒哀楽も栄枯盛衰も諸行無常も諸法無我も全部ひっくるめて「面白かった」「楽しかった」、そして「やってよかった」と言えるようになる。「いいものに繋がっている」と信じて選び、親しみ、親友となり、一体となる。

そろそろ時間だ。

来月は、自分の心を映す全てのもの、鏡について書ければと思う。

今月も、健康と健闘を。